



2008年

11月



手渡す

「緑の募金に ご協力 お願いします！」

よくとおる、澄んだ声が姫島駅の構内に響き渡ります。西淀川区内で活動するガールスカウト26団が9月21日、大阪府内の緑化事業や里山づくりの活動に役立てるための街頭募金活動をしました。

この日参加した親子はあわせて23人。ガールスカウトは、毎春「緑の募金」を続けてきましたが、今年は西淀川区内で取り組まれている「菜の花プロジェクト」の活動を広く区民に知ってもらおうと秋の募金活動を実施しました。募金に応じた人には、緑の羽と一緒に「菜の花」(種つき栽培ガイド)を手渡しました。

前日の20日には、「菜の花プロジェクト」に賛同する大阪府立西淀川高校のエココミュニケーション同好会(ECC)、大阪市立淀中学校生徒徒会、あおぞら財団とともに関西スパー前で募金を訴え、約30人が参加しました。

●目次

特集 資料館の活動

日本の資料保存と活用～その現状と問題点	松岡 資明	2
紙上展示 西淀川公害パネル	編集部	4
公害の現場を歩いて～水保見聞記～	鎗山善理子	6
もりもとまきのアーキビストの目 in 水保	森本 米紀	7
【新刊紹介】『公害・環境問題史を学ぶ人のために』	小田 康徳	8
ダッチ・ミラクル～小さな国の大きな挑戦～④	依藤 光代	3
第26回日本環境会議水島大会の報告	矢羽田 薫	9
〈リレーエッセー〉西淀川で一緒にとりくめることは何か	松本 嘉子	10
〈忙中一筆〉エコミューズから学ぶ	除本 理史	12

特集 資料館の活動

西淀川・公害と環境資料館（エコミュージズ）が開館して3年目となり、現在の利用者は累計で約900名となりました。資料の収集・保存から始まったとくみですが、すこしずつ活用やネットワークを視野に入れた活動が増えてきました。今回のエコミュージズの報告が、日本の資料保存の現状について考えるきっかけになればと思います。

日本の資料保存と活用 その現状と問題点

松岡 資明

日本…アメリカに42対2500

日本の公文書館の実態を物語る指標として、42対2500という数字がよく使われる。前者は日本の国立公文書館の職員数、後者は米国立公文書館（NARA）の職員数である。この数字だけでも、日本と米国の公文書保存に対する認識の違いが明らかにできるだろう。

地方自治体でいえば、全国47都道府県のうち公文書館（文書館など名称は様々だが）がある県は30にとどまる。また市町村ならば、全国で1800弱を数える市町村のうち、7政令市を含めて市町村立の公文書館は20を少し上回る程度である。さらに、国の行政機関が作成し、保存期間満了を迎える公文書は毎年、本省分だけでホルダー（簿冊）100万冊を超える。が、その90%以上は廃棄され、国立公文書館に移管される公文書は1%に満たない。廃棄

するか移管するかは判断は省庁に委ねられているのが現実である。

公文書保存・管理では後進国

こう書いてくれば、日本の資料保存と切りわけ公文書の保存がどのような状況にあるのか今更言うまでもないであろう。こと公文書保存・管理に関して言えば、日本は後進国と違って差し支えない。開発途上国と比べられる国にも公文書を適正に管理するための法律はあるのに対し、日本にはそうした法律すらないのである。資料保存に対する認識の低さは、公文書に限った話ではない。民間でも資料保存に対する意識は希薄だ。それを象徴するのが社史である。これまで日本で刊行された企業の社史は約1万4000にのぼると言われる。が、多くの場合、社史編纂のためにせっかく集めた一次資料を惜しげもなく捨ててきたのが現実である。

中には、資料を様々な形で活用している日本航空のような企業もある。同社は羽田にあるテクニカルセンタービルの一画に創刊以来の社内報やタイムテーブル、ポスター、機内誌など様々な資料を集め、広報部に所属するアーカイブズセンターとして機能させてきた。5年近く前に現在の場所に移転したとき、運び込んだ資料は段ボール5000箱以上になったという。

「アーカイブズがあつて助かった」

が、そこに至るまでには様々な苦労があつた。どんな細かなことでも良いから、「アーカイブズがあつて助かった」と社員に思わせるようなアウトプットが大事だと、担当者は話す。社員の目に触れやすい場所にアーカイブズがあることも重要だ。テクニカルセンターには健康管理部門があり、少なくとも年に一度はほぼ全社員がテクニカルセンターを訪れる。その折に、アーカイブズセンターをのぞいてもらおうという狙いもあつた。

社外はもちろん、社内からの問い合わせにも「分かりません」は、ご法度。まずは社員に興味を持って

らうことが肝要という。

ただ、こうした企業はまれ。多くの企業ではいまだにアーカイブズの重要性を認識していない。今後は少しずつ変化していく可能性はある。

新会社法や金融商品取引法によって企業の内部統制が重視されるようになっており、最も重要な施策として文書管理が位置付けられているからだ。一方、公文書も「公文書管理の在り方等に関する有識者会議」が最終報告を出し、法案作成の作業が始まる。政府は来年の通常国会に提出の予定である。

(まつおか・ただあき 日本経済新聞社編集委員)

現代を歴史に刻む

アーカイブズ新しい身

わが国最大の原発数えた公費約1億5千万円を費した。被害者九社との和解が一九九五年に成立。元の原告を中心に地域の再生事業に取り組み。母体となるのは、和解金を基に設立された財団法人公害地域再生センター。あおぞら財団だ。第一次裁判が始ったのは九年、財団の準備が完了した。段ボール箱の記録資料(アーカイブズ)は、二十年に及ぶ資料を蓄積。J財団・東京裁判の御影(おかげ)として、駆け

大気汚染から再生、歩み30年

段ボール箱の山 裁判の教訓残す

この研究員(林義弘)が、

が書類から取り出したの

は、大気汚染の実態をう

に示す写真だった。数

度も、最終的に和解の重

判に用いられた資料だ。

取った資料が、六階の重

宝が壊れ始めた。二〇年

の暮、ある日、中学生

の坂下川で遊んでいた

時、段ボール箱が突然

目の前に落ちてきた。何

か、拾った段ボール箱

を家に持ち帰った。これ

が、段ボール箱の山だ。

案を積み重ねた。これ

まで、段ボール箱は

山と化していた。この

山は、段ボール箱の

山だ。この山は、

段ボール箱の山だ。

段ボール箱の山だ。

段ボール箱の山だ。

段ボール箱の山だ。

段ボール箱の山だ。

段ボール箱の山だ。

段ボール箱の山だ。

段ボール箱の山だ。

段ボール箱の山だ。

段ボール箱の山だ。

段ボール箱の山だ。

段ボール箱の山だ。

段ボール箱の山だ。

段ボール箱の山だ。

段ボール箱の山だ。

段ボール箱の山だ。

段ボール箱の山だ。

段ボール箱の山だ。

段ボール箱の山だ。

段ボール箱の山だ。

段ボール箱の山だ。

段ボール箱の山だ。



あおぞら財団の準備には資料を入れた段ボールが数えきれぬほど

挑戦

この研究員(林義弘)が、

が書類から取り出したの

は、大気汚染の実態をう

に示す写真だった。数

度も、最終的に和解の重

判に用いられた資料だ。

取った資料が、六階の重

宝が壊れ始めた。二〇年

の暮、ある日、中学生

の坂下川で遊んでいた

時、段ボール箱が突然

目の前に落ちてきた。何

か、拾った段ボール箱

を家に持ち帰った。これ

が、段ボール箱の山だ。

案を積み重ねた。これ

まで、段ボール箱は

山と化していた。この

山は、段ボール箱の

山だ。この山は、

段ボール箱の山だ。

段ボール箱の山だ。

段ボール箱の山だ。

段ボール箱の山だ。

段ボール箱の山だ。

段ボール箱の山だ。

日本経済新聞 2007年12月7日夕刊
松岡氏が執筆したエコミューズ紹介記事



テルプ：低地に人工的につくられた水害時の避難用の丘

ダッチ・ミラクル

～小さな国の大きな挑戦～



依藤 光代 — ④国を守る自信と情熱

オランダの政治政策は比較的スムーズに進行することで知られていますが、その理由ははるか昔からの治水の歴史までさかのぼるようです。国土全体が低地であるため海や川からの水の脅威に悩まされてきたオランダでは、人々は古くから団結して対処しました。そのリーダーとして行政は信頼を得るようになります。また話し合って解決するという習慣が生まれました。オランダ人は水との戦いを通して、安全な国土と現在の国家の基礎を作り上げてきたのです。

とはいえ今も国土の四分の一は海面より低い位置している国ですから、環境問題への取り組みは積極的です。強い風が安定して吹き付ける気候を生かし風力発電を盛んに行っており、街の外へかければ巨大なプロペラが立ち並んでいるのを見かけます。一方で根っからの節約家のオランダ人の心をくすぐるかのようには、ビール瓶とペットボトルは中身を消費した後近くのスーパーマーケットで回収・換金してくれまます。また日常の買い物ではプラスチック袋は有料なので、たくさんの方が持参しています。

ところでオランダ政府からの最近の発表によれば、地球規模の環境変化により数百年後には海水位が一メートルほど上昇するだろうということです。これは海に囲まれた日本としてもただごとではないと内心動揺しましたが、オランダ人の大学教授は落ち着いたもの。これはオランダ人にとっては大きな挑戦なんだ、とウインクして見せてくれました。さすが自ら築いた国土だけあって、守っていくという自信も情熱も相当なものです。

地球規模の問題の前では途方に暮れそうになりますが、結局はなんとかせねばなりません。ただ悲観したり目を背けたりするのではなく、前向きに取り組む努力しようとする姿勢に勇気づけられます。

(よりふじ・みよ) 大阪大学大学院

紙展 上示

西淀川公害パネル

「西淀川公害の展示パネルを作成したい」という願いを実現するために、昨年の11月から展示を作成するための募金を呼びかけてきました。皆さんの協力のおかげで目標額50万円が2008年3月末までに集まり、展示作成に着手できました。

あおぞら財団が始まってからの12年間、公害問題資料や証言等を集集してきました。そしてようやく、展示パネルという形でその成果の一部を示すこととなりました。紙上で少しだけですがご紹介いたします。ぜひ現物を見にエコミュージズに足を運んでください。お待ちしております。

西淀川・公害と環境対策 エコミュージズ

公害

みんなで力をあわせて
大阪・西淀川地域の記録と証言

WVNY
WEST VALLEY NEIGHBORHOODS

現在の大阪市西淀川区は1930年代から産業工業地帯の一部となり、多くの住民は1970年代から、区内にもたらされた大規模な公害や此区などの工場から日夜発生される有害なガスや塵埃、あるいはまた阪神国道や国道4号線を通る自動車排気ガスによって苦しんでまいりました。しかし、この西淀川公害は被害者や住人が自ら立ち上がり、公害問題の改善を求めて、市民団体の活動がきっかけとなり、公害や公害をまよまよと専門家の力をあわせて、地道と法闘も闘い、地域を先をめぐり多くの貴重な記録を残すことになりました。このパネル展示は、西淀川に暮らして多くの人びとがどのように西淀川公害に立ち向かってきたのか、どのような人びとがどのように公害を克服して来たのかを特長としているからです。西淀川区は公害は多く問題を抱えています。公害は公害解決しない限り終わらせません。このパネル展示をぜひ見に行きたいと思いませんか？

西淀川公害と環境対策 エコミュージズ

子どもたちを守らなければ

学校

自然豊かな地域と西淀川のチョウの姿を保護し環境を調査

公害の影響をみんなで調べよう!

西淀川区は茶色に染まっています

子ども達を公害から守るため授業で公害を教えるサポート

喘息児の健康をサポートしよう!

公害への関心を高めます

公害を伝える

被害者による被害を調査

西淀川公害と環境対策 エコミュージズ

病気・苦しみの連鎖

患者

死 自殺未遂 行動の制限 食事も入浴が困難 周囲の無理解 怒りや呼ばれ

病気になる

喘息発作 呼吸困難 金銭的な困難 収入が減る

生活設計の変更 人間関係の悪化 生活水準の低下

西淀川区から、西淀川地域で多くの住民が喘息やアレルギーなどの呼吸器系の病気を発症しました。これらの病状は、発症が起きているときは見えない無症状の人と変わりません。しかし、せき息のかかる夜や明け方に発症が起きて、重症になると意識を失い死の淵までまよいます。重症化すると夜明け方に発症が起き、眠ることができません。毎日薬を飲んでも完治する見込みのない病気です。仕事をしなくてもいい、勉強しなくても学校に通えない。収入に治療を必要とする患者の苦しみは、家庭はますます苦しい状況に陥ります。上、治療費がかさみ生活に支障をきたしています。患者は日々苦しみ、苦しみは病気を悪化させていきました。また病状は悪化して、発症が起きない日は、苦しみは、苦しみの人と変わらないで、周りから疎まれている、差別されています。

西淀川区は大阪市内で一番公害被害者が多い

豊富な図・マンガ 人間登場!

【西淀川公害】
発展の影で大気汚染
住民の健康や生活環境よりも
企業の利益や生産を優先

【西淀川住民】
公害 立ち上がる住民
住民が団結して汚染源と対決
公害の跡地は有効利用

【患者】
病気： 苦しみの連鎖
病気になる生活が変わり
人間関係も悪化して生活水準が低下する

【国と自治体】
公害対策に取り組み
被害者、住民、世論に押され、
国がやっと本格的な対策を

【公害患者会】
西淀川で患者会誕生
公害をなくして患者の権利を守る患者会
全国の公害患者が連携して政策を動かす

【学校】
子どもたちを守らなければ
子ども達を公害から守るため
授業で公害を教えるサポート

【医者】
原因は公害 患者を支える
検査センターを立ち上げ
公害病認定申請を手助け

【ジャーナリスト】
被害を伝える
公害の実態がジャーナリストの心を動かし
人に伝わる記事となる

【地元企業】
公害防止が生きる道



このたび出来上がった十二枚の展示パネルは、患者や住民をはじめ西淀川公害に関係した多くの人々がどのよう

展示パネルを作成して

エコミューズ館長 小田 康徳

これに取り組んできたかという点に焦点を当てて、当時の写真は言うまでもなく、分りやすい図・マンガを使い、短い文章で要約したものです。西淀川で得た大気汚染公害の経験とはどのようなものか、エコミューズを訪れる人びとに知っていただくだけでなく、さらには、これを見にエコミューズを訪れる人が増えることも期待しています。この展示パネルが出来るとしては、昨年来多くの方々はその費用の寄付をお願いし、ご協力を得ました。皆様にお礼申し上げますとともに、今後さらに多くの期待に応えていけるよう、力を注いでまいります。

西淀川公害展示パネルおひろめ会を開催します

新しくできた展示パネルをおひろめし、パネルに登場する人々と交流する会を開催します。ぜひご参加ください。

日時：12月12日(金) 15:00～20:00
 15:00～18:00 展示閲覧(ご自由にご覧ください)
 18:00～20:00 交流会・展示解説(要申込)

場所：あおぞら財団付属西淀川・公害と環境資料館(エコミューズ)

参加希望の方はご連絡ください。
 TEL：06-6475-8885
 FAX：06-6478-5885
 E-mail：webmaster@aozora.or.jp

展示パネルはエコミューズにて常設しています
 貸し出し用もありますので、詳しくはお問い合わせください
 フルカラー B2版計 13 枚 (表紙含む)

西淀川で患者会誕生

公害 みんなで力をあわせて 公害患者会

公害をなくして患者の権利を守る患者会 他の公害患者と連携して政策を動かす

全国の公害認定患者数1988年12月現在
 (1989年10月末第一報認定患者数1560(患者数)を要約)
 西淀川 2733人(1988年3月末)

西淀川公害被害者第1回総会
 総会当日は多くの市民が参加し、公害問題の現状と今後の対策について話し合った。

公害被害者の歴史

公害の種類	1960年代	1970年代	1980年代	1990年代	2000年代
大気汚染公害	1000	1500	1000	500	200
水質汚濁公害	500	1000	1000	500	200
土壌汚染公害	100	200	300	400	500
騒音公害	500	1000	1000	500	200
電磁界公害	100	200	300	400	500
その他	100	200	300	400	500

公害被害者の歴史

公害被害者の歴史

公害被害者の歴史

被害を伝える

公害 みんなで力をあわせて ジャーナリスト

自分を責める患者

突然降り注ぐヘドロの川にフナがいた!

公害の実態がジャーナリストの心を動かし人に伝わる記事となる

市民が記者を育てる

記者養成班

「公害」がわかる

公害防止技術を高めて 住民との共存をはかる

【弁護士】 困難な裁判をやりぬく 20年の歳月をかけた裁判 公害行政の後退を止める

【学者】 公害発生の仕組みを証明 弱者の立場で公害のない社会 にするための理論づくり

【公害地域再生】 手渡したいのは青い空 公害患者が作った再生プランを実現させるために あおぞら財団は活動を続けています

歩いて



鏑山善理子

水俣市立水俣病資料館、(財)相思社、水俣病被害者の会事務所

今回の訪問では、最初の2日間で国水研の施設、水俣病情報センターをはじめ、水俣市立水俣病資料館、(財)相思社、水俣病被害者の会事務所

訪問先

1日目 = 9月4日(木)

- 国立水俣病総合研究センター
水俣病情報センター
- 水俣市立水俣病資料館

2日目 = 9月5日(金)

- (財)相思社 水俣病歴史考証館
- 水俣病被害者の会全国連合会
- 水俣市内視察

海の幸、山の幸、人のぬくもりに恵まれて、3日間という短い期間でしたが、水俣のさまざまな姿を垣間見ることができました。公害・環境問題に関する資料をどうやって保存し、活用していくのか。その先行事例を自分たちの目で見てこようと、9月4日(木)〜6日(土)、熊本県水俣市を訪れました。

エコミューズでは2006年度から(独法)環境再生保全機構からの受託業務で、大気汚染公害問題資料のデジタル化を実施しています。一方、水俣では2003(平成15)年度より国立水俣病総合研究センター(以下、国水研)が「水俣病関連資料総合調査事業」に本格的に着手しており、市民団体が所有する資料も含めてその所在や内容についてデータベース化していこうとしています(詳細はリベラNo.81/2004年11月号)。



水俣病巡礼八十八ヶ所
一番札所のお地藏さま



向こうに見えるのは和田岬。
高台の建物は国立水俣病総合研究センター



水俣病情報センターと水俣病資料館のスタッフにヒアリング



水俣病資料館の前で

現在、そのための手続きを進行中で、インターネット上での資料公開などは一時休止していると説明を受けました。

さて、3日目の最終日。「水俣の良さを存分に見て帰ってほしい」という国水研所長のアドバイスにより、「村丸ごと生活博物館」へと足を伸ばしました。広がる棚田の景色、おいしいお茶菓子と手料理のおもてなし、楽しいおしゃべりに私たち一行は大満足。

海と山に囲まれて、水俣がいかに自然豊かな地であるのかを知れば知るほど、「水俣病」が破壊したものの重さ、そして人びとの苦しみが浮き彫りにされるかのようでした。「水俣病」を世界、そして後世へ伝えていくための資料を収集し、保存し、公開・活用できるように整理していく取り組みは本当に大きなプロジェクトです。しかし、どんなに大きなプロジェクトでも、まずは、目の前にある課題に着手に取り組んでいく。そうすることで、一歩ずつ前進していくのだと実感しました。

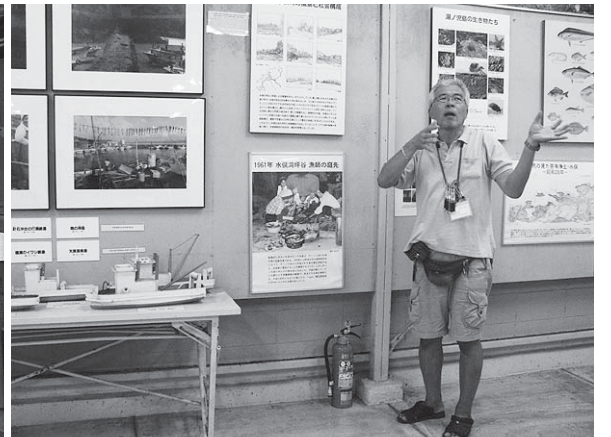
被害者の会事務所



相思社の書庫のようす



水俣病歴史考証館で展示の説明を受ける



壁を埋め尽くすパネルー水俣市立水俣病資料館



水俣市立水俣病資料館の展示は、壁をすみずみまで埋め尽くすパネル展示が特徴です。驚いたのは、そのパネルのほとんどにびっしり文字が並んでおり、見学者は一枚一枚を「読む」こととなります。一枚のパネルが語る内容の濃さ、そして数え切れないパネル数に、水俣病を伝えようとする資料館の熱意を感じました。これらの展示パネルは外部に貸出もされており、資料館の「外」にはばたく展示、としても注目されます。

公害の現場を歩



水俣見聞記



もりもとまきの

アーキビストの目 in 水俣

水俣病を伝えるために、各機関・団体は、資料の収集・保存と、それを活かした展示に取り組みまわりました。このコーナーでは、タイプの違う2つの展示を紹介します。

「読ませる」展示 ー水俣市立水俣病資料館

読ませる展示・見せる展示 森本 米紀

一方、(財) 相思社水俣病歴史考証館の展示は、資料現物を「見せる」ことにこだわった展示です。水俣病以前の伝統的な漁船や漁具、水俣病の原因究明に使用されたネコ実験の小屋、患者支援者が作った「怨」の旗など、水俣を襲った苦難をありありと感じました。

「西淀川・公害と環境資料館」でも、膨大な数の所蔵資料をいかに展示に活用し、公害の記憶を伝えられるのか。両館の展示のあり方に、大きな課題を与えられました。

・「資料館だより」に「もりもとまきのアーキビストの目」連載中。ブログ版もスタート!
(もりもとまき エコミューズ資料整理スタッフ)

「見せる」展示 ー(財) 相思社水俣病歴史考証館



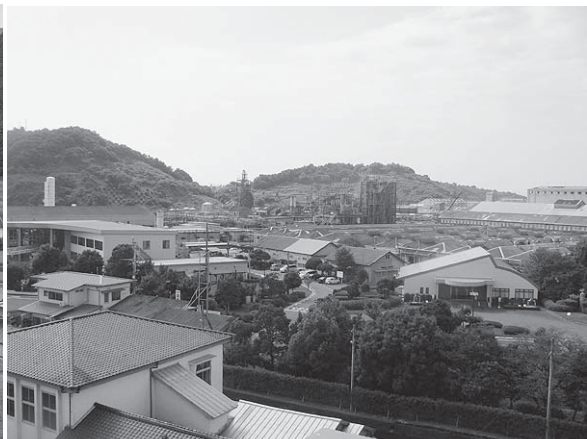
貴重な資料が並ぶー(財) 相思社水俣病歴史考証館

(やりやま・よりこ 研究員)

「村丸ごと生活博物館」で棚田を見る



上から見るチッソの敷地内



水俣病被害者



新刊紹介

小田康徳〔編〕

『公害・環境問題史を学ぶ人のために』

エコミューズ館長 小田 康徳

こんど、西淀川公害訴訟に関わった弁護士さんやお医者さん、あるいはその他の研究者の方々と協同して表記の本を世界思想社から発刊することができました。内容は、いま公害問題の歴史を知ることの意義と基本的視点を論じた「序にかえて」をはじめとし、第一部「通史」、第二部「被害の実例に見る公害問題・環境問題の展開」、第三部「公害問題が問いかけているもの」、第四部「年表および参考文献」の四部から成り立っています。公害問題と環境問題

が明治以降産業発展を優先する国家の基本姿勢の下、いかに問題として形成されてきたか、被害者・住民あるいは広く国民がそれとどう闘ってきたか、とくに一九七〇年前後の一大社会問題化以後社会の各方面にどのようなインパクトを与えてきたのかをコンパクトにまとめたものです。公害問題の歴史的流れを知りたいという学生さんや市民の皆さんに広く読んでもらうため、文章は読みやすく、また要点を簡潔に記すことに努めました。

公害問題はもう終わったという声も聞こえていますが、過去の経験を忘れ、いままた産業優先の気風が支配するようになっていくようであれば、実に空しいことではないでしょうか。中国の現状は日本がかつて辿った道でもありました。この本を読めば、一九六〇年代から七〇年代初めにかけて展開した激烈な公害・環境破壊は、戦前の公害経験を忘れ、ひたすら産業発展を優先した結果だったことに思いを寄せることができ

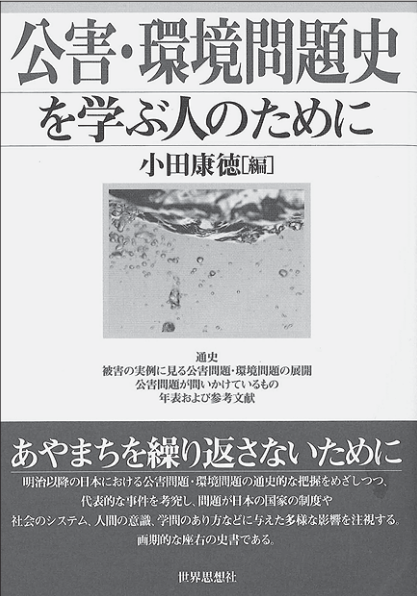
るでしょう。また、現在強力な力を持つている環境重視の思想は、困難ななか人間の尊厳と人権の尊重を厳しく追及してきた被害者・住民・ジャーナリズムそして国民の努力と運

動の成果だったことが分かっています。そして、現在の地球環境問題は、過去の公害問題と決して無縁でないことも明らかになってきます。

とところで、こうした書物は、その必要性は認識されながら、なかなか出版されてこなかったのも事実のようです。今回不十分ながらもこうしてその成果を世に問うことができた。できるだけ多くの人がとに読んでいただき、この方面の知識の確立に広く寄与できれば、こんなうれしいことはありません。

（世界思想社 全二八四ページ。定価は消費税込みで二一〇〇円、二〇〇八年一〇月発行）

（おだ・やすのり 大阪電気通信大学教授）



あやまちを繰り返さないために
明治以降の日本における公害問題・環境問題の通史的な把握をめざし、代表的な事件を考究し、問題が日本の国家の制度や社会のシステム、人間の意識、学問のあり方などに与えた多様な影響を注視する。画期的な座右の史書である。

（世界思想社）



同書で使用している西淀川・公害と環境資料館（エコミューズ）所蔵の写真「黒くかすんだ西淀川工業地域（1970年代後半）」



第26回日本環境会議水島大会の報告

矢羽田 薫

はじめに

第26回日本環境会議水島大会が、2008年9月20日(土)〜22日(月)の日程で、「環境再生と健康なまちづくり」を全体テーマとして、倉敷芸術科学大学で開催された(述べ参加500人)。日本環境会議は、学者や弁護士などを中心

包括的呼吸リハビリテーションの取り組みに関する報告

初日の全体会議における報告「包括的呼吸リハビリテーション—その効果と課題」では、財団が環境省からの請負事業として、水島協同病院やみずしま財団と協力して実施している患者の希望にあわせてリハビリプログラムの実践内容や効果等について詳細が紹介された。また、水島協同病院で死亡した公害認定患者501例のうち、病理的解剖所見を分析した剖検95例に関する報告が行われ、公害患者の急性増悪や症状悪化を未然に予防するためには、定期的な健康管理としてリハビリテーションを行うことが極めて重要であることが触れられた。

つづくパネルディスカッションでは、日本と中国、韓国を中心としたアジアにおいて、公害・環境問題の解決に向けて、情報の発信と交流等を中心的に議論を行った。

今後の協働実践に向けて

あおぞら財団では、交通まちづくりの活動や公害経験の教訓を中国やアジアに情報発信する活動を重点事業として位置づけている。今後も、日本環境会議に集う研究者、被害者、様々な個人や団体等との交流を通して、活動を一層前進したいと考えている。そのことが、西淀川区における環境再生のまちづくり、そして、各地の公害地域の環境再生の活動に蓄積されるよう、関係者と連携し、協働して取り組みを進めたい。

(やはた かおる・研究員)

日本環境会議全体会議・里見和彦医師の報告
「包括的呼吸リハビリテーション—その効果と課題」(2008.9.20開催)

1979年に設立された学際的な団体で、公害地域の環境再生・地域再生に関する政策提言等の活動を続けている。財団では、同会の取り組みに学び会員と交流を深めるため、設立当初から参加してきた。今大会で、財団は、2日目に第3分科会「公害地域の環境再生・そのアジアへの発信」への企画運営に協力、報告を行った。

パネルディスカッション —公害経験とそのアジアへの情報発信

2日目(21日)に開催された第3分科会「公害経験と環境再生そのアジアへの発信」では、まず、早川光俊先生(弁護士、地球環境と大気汚染を考える全国市民会議(CASA)専務理事)から特別報告「地

球温暖化防止の視点から公害経験と環境再生への取り組みについて」があった。次に、中国・韓国の公害環境問題の実情報告が2件、大阪(西淀川)・名古屋・倉敷・尼崎における環境再生・地域再生に取り組む活動の事例紹介が4件行われた。

大阪・西淀川からは、「公害経験の教訓を活かした環境再生のまちづくり—地球温暖化防止の視点から」をテーマとして主に、大気汚染公害反対運動と裁判の経過、区内の大気環境や区民の居住意識の実情、それらを踏まえて、持続可能な社会づくりに向けて、エコドライブを中心とした交通まちづくりや中国・アジアへの公害経験の情報発信を進める財団の活動を紹介した。

ほっと ニュース

夏のインターン生 活躍

今年の夏は、5人の大學生がインターン生として、あおぞら財団で活躍しました。京都外国語大学から1人、桃山学院大学から2人、大阪経済大学から2人で、それぞれ約2週間の研修をおこないました。パソコンの操作が苦手な学生にとっては、四苦八苦の毎日だったようですが、子どもたちが参加するイベントや、中学生の「職業体験」の受入では、みな、お兄さん、お姉さんぶりを発揮していました。

中学2年生の「職業体験」受入

大阪市立佃中学校の2年生5人が、9月19日（金）に「職業体験」であおぞら財団にやってきました。中には、小学生のときに、授業であおぞら財団スタッフの話聞いたという生徒もいました。さて、当日。やはり、緊張のため生徒たちはみな、静かだまじめ。きつといつもの様子と違うのでしょうか。後日届いた手紙の「よくしゃべるスタッフがきてほくたちをわらかしてくれました」との一文には、こちらも笑わせてもらいました。

市民塾第4回 特別講座「カーフリーデーとモビリティウィークについて」

みなさんはカーフリーデーという言葉をご存知ですか。カーフリーデーはヨーロッパを中心に、毎年9月16日、22日までの1週間に行われる「モビリティウィーク」の主要イベントです。9月22日に開催されます。モビリティウィークとは、持続可能な移動方法、都市交通のあり方を考えてもらう期間。カーフリーデー開催日は、市民にクルマに頼らなくても街での日常生活に支障がないということを実感してもらうために、都市の中心市街地内にマイカーを1日中使わない地区を設け、クルマから解放された都市環境を創り出します。また同時に、クルマと都市や地球環境、都市文化との関係について考えてもらうためのさまざまな催しも開かれます。近年、横浜や那覇など日本の都市でも開かれるようになりました。

そのカーフリーデーの翌日、9月23日に市民塾特別講座「カーフリーデーとモビリティウィークについて」を開催しました（参加者11名）。講座の前半は、南聡一郎氏（カーフリーデージャパン、京都大学大学院）が、諸外国などで実際に見た体験を元に報告。後半は、講義の理解を深めるために、参加者で議論をしました。参加者からは、西淀川でもカーフリーデーができないかなどの意見が出て、とても盛り上がりしました。

リレーエッセー

西淀病院はじめ、淀川勤労者厚生協会（以下淀協）の各診療所の医療活動のあゆみを語る時、患者さんや地域の人びとと一緒にたたかってきた「西淀川公害」の歴史は欠かすことはできない。わたしが淀協に入職した80年代は、先輩たちが、語り伝えてくれた歴史とともに、目のまえで喘息発作で苦しむ多くの患者さんがいた。患者さんの話を聞く中で、過去の歴史というだけでなく、その苦しみが続いているということを知った。「この患者さんの苦しみをなんとかしてあげたい」と運動への参加や公害問題に取り組むことが西淀病院の使命だとも思えた。

しかし、最近では、重篤な公害病の患者さんの多くは亡くなられ、裁判闘争も終わり、患者さんと医療機関という関係になってきた。新しく入職してくる職員に淀協の歴史を語り、公害の歴史は、「過去の歴史」として語ることが多くなってきた。

西淀川で 一緒にとりくめることは何か

松本 嘉子

今回、あおぞら財団の評議員をさせていただくようになって、あらためて「公害、環境問題をどう職員に語り伝え、そして今淀協の事業所が、医療・介護分野でこの西淀川で一緒にとりくめることは何か」を考えるようになった。若い職員が、環境問題に関心を持ち、安心して住み続けられる西淀川のまちづくりには、あおぞら財団の方たちの力も借りて一緒に取り組んでいく橋渡しの役割ができたらと思っています。

（まつもと よしこ・財団法人
淀川勤労者厚生協会人事・総務部長、財団評議員）



山登りを楽しむ
（中央アルプス・宝剣岳千畳敷カールにて）

お知らせ

矢倉海岸定例探鳥会

(日本野鳥の会大阪支部との共催)
日時 12月6日(土) 午前9時30分
午後12時30分頃

集合 阪神電鉄西大阪線「福」駅
改札口 午前9時30分
場所 矢倉緑地公園

あおぞら財団「ボランティア」の日
毎月第1金曜日(はあおぞら財団ボランティアの日です。
環境NPOの仕事を経験してみませんか?)

- 1日(金) 資料館定例会議
- 2日(土) JICA大阪国際教育セミナー(講師:林)
イタイイタイ病立入調査(参加、~3日)
- 5日(火) 拡大事務局会議
将来構想検討委員会
- 6日(水) 道路環境市民塾運営会議
APNEC9(京都会議)日本環境会議30周年記念大会(尼崎会議)&現地実行委員会
てづくりせっぽん教室
- 7日(木) 大正区女性学級フードマイレージ(講師:林)
- 8日(金) 大阪経済大学ボランティア論実習受入
- 10日(日) 第5回菜の花学芸会・楽会(参加)
- 11日(月) 大阪経済大学ボランティア論実習受入
畠山貴子氏・インターン実習(桃山学院大学~8/30)
よどがわ市民生協東淀川区行政委員会フードマイレージ(講師:林)
- 12日(火) 西淀川公害患者と家族の会役員会(報告)
- 19日(火) 事務局会議
佐多一弘氏インターン実習(京都外国語大学~9/10)
神戸まちづくりアーカイブ見学受入
- 20日(水) ECOまちネットワークよどがわ会議
- 21日(木) 市民環境調査隊・グループ会議
野田健太氏インターン実習(大阪経済大学~9/19)
平野早希子氏インターン実習(桃山学院大学~9/4)
- 23日(土) 生き生き地球館西淀川高校ECC菜の花プログラム発表
稲野宏樹氏インターン実習(大阪経済大学~9/12)
第26回日本環境会議水島大会実行委員会
- 26日(火) 事務局会議
- 27日(水) ESD事務局会議
- 28日(木) セミのぬけから調べ
- 30日(土) 桜木町住民提案づくり子どもワークショップ

お問合せ、お待ちしております。

空気の汚れをさらへてみよう

(二酸化チソン簡易カプセル測定)
測定用したい場所にカプセルをとりつけます。24時間設置後、あおぞらビルで試薬を使って測定します。

測定用カプセルの配布

12月15日(月) ~ 22日(月)

測定用カプセルを測定場所へ設置

12月24日(水) 午前9時~

25日(木) 午前9時~

測定日 12月25日(木)

場所 あおぞらビル3階

企画協力 子どもの参画へんきょう会

お礼

(2008年8月・9月 敬称略)

●寄附・寄贈者

栗屋かよ子、伊田緑、茨城県農村研修館、若手県立紫波総合高校、NHK徳島放送局、岡本、奥田哲史、小田康徳、川崎美栄子、蔵本幸治、(株)神戸製鋼所、酒井健一、宍野雅幸、下野憲一郎、世戸栄子、全国公害被害者総行動実行委員会、武豊文化創造協会、柘植光代、寺西俊一、豊島協一郎、波部恒昭、西淀川図書館、日本環境教育フォーラム、野尻節雄、畑明郎、原田素代、東大阪地球温暖化対策地域協議会、福島幸宏、牧洋

子、御幸森小学校、森美千秋、森山正和、吉田巖

●お助けボランティア参加者

浅井真二、池田風弥、伊藤亜紀穂、入江智恵子、大野みさ子、尾崎寛直、阪井紗代、和田美頭子、豊田鈴子、永野千代子、前田浩輔、宮本はな、山崎広志、除本理史、吉岡美佐緒、吉川知里

●入会ありがとうございます

(6~9月)
NPO法人西淀川子どもセンター、池田風弥、財団法人環境科学総合研究所、京都自然史研究所、岸本博、桜井康好、寺川政司、長瀬文雄、日原一智、丸田道子

事務局日誌

8月

9月

- 1日(月) 桃山学院大学インターン担当者来所
- 2日(火) 拡大事務局会議
西淀川図書館にて展示開始(~10/30)
- 3日(水) 除本・尾崎氏による森脇ヒアリング
西淀川地域研究会(報告:谷智恵子弁護士)
水俣視察調査(資料保存・活用)(~6日)
- 4日(木) ボランティアの日
- 5日(金) 西淀川子育てプラザなかよしまつり会議
- 7日(日) 広報会議
西淀川高校ECCフードマイレージゲーム
- 8日(月) 事務局会議
西淀川公害患者と家族の会役員会(報告)
大阪市中等教育研究会特別活動部2ブロック見学研修受入
自転車文化タウンづくりの会・幹事会
千代田高校フードマイレージ(講師:林)
- 10日(水) 子どもの参画へんきょう会
- 11日(木) よどがわ市民生活協同組合を考えるひろば事前プレゼン(講師:林)
自転車文化タウンづくりの会第1回研究会
- 12日(金) 桜木町須磨多聞線整備事業住民提案作りWS第2回
- 13日(土) 事務局会議
- 16日(火) 緑陰道路サロン
ESD全体会議
将来構想検討委員会
豊中市小中学校教育研究会フードマイレージ(講師:林)
- 17日(水) 西淀川地域再生研究会
市民環境調査隊分科会
- 18日(木) 佃中学校職場体験受入
- 19日(金) 西淀川ESD線の募金(関西スーパー)
- 20日(土) 市民環境調査隊活動計画発表会
第26回日本環境会議水島大会(~21日、参加、報告:矢羽田)
- 21日(日) 西淀川ESD線の募金(姫島駅前)
東淀川区民祭り(参加)
- 23日(火) 道路環境市民塾第4回講座
- 24日(水) 事務局会議
- 26日(金) APNEC9(京都会議)日本環境会議30周年記念大会(尼崎会議)&第1回実行委員会
- 27日(土) 西淀川区民まつり(参加)
西淀川公害患者と家族の会大野支部総会(報告)
- 28日(日) 除本・尾崎氏による辰巳正夫氏ヒアリング
- 30日(火) 事務局会議

【編集後記】 弁護士や裁判官の「卵」～司法修習生の研修を受け入れました。10人の修習生が2人の弁護士に伴われて、朝、阪神電車出来島駅に到着。一行は、大量の大型車が行き交う国道43号で大気汚染を体感、大気測定局のある出来島小学校、淀中学校を経由して、あおぞら苑へと向かいました。「公害環境問題の現場を歩く」と名付けられた大阪弁護士会による司法修習生実務修習。公害患者の「語り部」による被害の実態、国土交通省大阪国道事務所からは、和解後の環境改善事業の説明をうけ、公害訴訟に関わった医師の「肉声」にも触れました。修習生らはこの日見上げる青空が、かつては灰色だったことに驚き、「実務家として将来のヴィジョンについて考えることが出来たのではないか」と評価を頂きました。(T)

『Libella』No.105 2008年11月号(隔月1日、年6回発行)
発行所 (財) 公害地域再生センター (あおぞら財団)
編集人 上田敏幸

大阪市西淀川区千舟1-1-1 あおぞらビル4階
Tel.06-6475-8885 Fax.06-6478-5885
http://www.aozora.or.jp/
E-Mail webmaster@aozora.or.jp

印刷所 あゆみコーポレーション
定価 一部400円(郵送料込み)

会員の購読料は会費に含まれています。
郵便振替口座 00960-9-124893 (加入者名 あおぞら財団)
乱丁・落丁はお取り替えます。本紙掲載記事の無断転載を禁じます。



よけもと 除本
まさふみ 理史

1971年、神奈川県生まれ。東京経済大学経済学部教授。日本環境会議常務理事。あおぞら財団賛助会員。環境経済学・環境政策論を専攻。主な研究テーマは、公害被害者救済をめぐる費用負担、環境再生のまちづくり、など。「川崎まちづくり研究室」を通じて、川崎の環境再生にもかかわる。今年4月に、共編著『環境再生のまちづくり：四日市から考える政策提言』（ミネルヴァ書房）を刊行。

西淀川公害に関する「ホンモノ」の歴史資料を集めたエコミューズから学ぶことは多い

西淀川の研究を開始

昨年末以来たびたび、聞き取り調査や資料収集のために、あおぞら財団にお邪魔している。ここ十年ほど、川崎・東京・四日市などで、公害被害者救済と環境再生に関する研究を行ってきていることもあり、あおぞら財団の皆様とは以前から面識があったが、西淀川について何か書いてみようと思いついたのは、つい最近である。

きっかけは、あおぞら財団理事でもある宮本憲一先生（大阪市立大学名誉教授、元滋賀大学学長）から、公害健康被害補償法や西淀

川公害訴訟について、森脇君雄さんから貴重な体験談をうかがい記録に残しておいた方がよいと勧められたことである。ちょうど森脇さんが、今年三月に出された『西淀川公害を語る―公害と闘い環境再生をめざして』（西淀川公害患者と家族の会編、本の泉社）の原稿を準備されていた頃だったので、草稿をお送りいただき勉強するところからはじめた。

現物の資料のもつ意味

生まれたところに近い川崎や、現在住んでいる東京のような比較的身近な地域とは違って、四日市や西淀川のように、土地勘のない場所の研究をはじめるとは、住民には「常識」といってよい地域史や地理を一から勉強しなくてはならないので、結構大変である。しかし、最近になってやっと、西淀川の公害反対運動史に対するイメージが、おぼろげながらつかめてきたように感じている。

それは、あおぞら財団付属エコミューズ（西淀川・公害と環境資料館）の所蔵資料を拝見してからである。今年九月の西淀川地域研究会の際に、小田康徳先生（大阪電気通信大学教授）が言われていたが、現物の歴史資料のもつ意味は書かれた内容にとどまらず、手触

りなどから具体的なイメージを得ることも大切である。小田先生の言葉どおり、資料を見て、当時の人々の姿が思い浮かぶような気がしたのである。

資料整理のボランティアも

今年八月、エコミューズ所蔵資料のうち未整理のものをいくつか拝借して、内容を検討しながら整理する作業を共同研究者とともに行った。研究上も大変勉強になったが、私達の作業について、エコミューズの『資料館だより』（二〇号、二〇〇八年九月）が取り上げてくださり、晴れて資料館のボランティア隊「エコミューズ★」の仲間入りを果たすことができた。それで調子にのって、九月にあおぞら財団の林美帆さんと一緒にヒアリングした方から拝借した資料を、エコミューズに所蔵していただくことにし、その整理作業も引き受けている。

というわけで最後に、あおぞら財団を訪れる多くの方々に、エコミューズの所蔵資料をぜひご覧になるようお勧めしたい。三〇年、四〇年前に作成された文書等を手にとって見ていると、当時の人々の息づかいが感じられるはずである。